

陸地の41%は乾燥地域。
 皮肉にも過放牧、森林伐採、過耕作などの勤勉な努力が乾燥地帯をひろげている。
 ヤコペッティ監督の『世界残酷物語』を彷彿とさせる

「乾燥する地球」

森林の多面的機能が人類の生存に欠かせない。
 全ての人類は2011年「国際森林年」に注目すべきだ。

水がなければ作物は育たない。食糧問題の大敵は乾燥、砂漠化である。そこで「乾燥する地球」で検索してみた。独立行政法人国立環境研究所の「環境展望台」→環境技術解説→「砂漠緑化」が気になる。

「砂漠緑化」

「国連によれば、乾燥地域は世界の陸地面積の約41%を占めており、乾燥地域の10~20%は気候変動や人間活動によって土地が劣化しているとされている。その原因は、気候的要因（気候変動、干ばつ、乾燥化等）と人為的要因（過放牧、森林の伐採、過耕作等）が複雑に組み合わさっている。」という。

陸地の41%も乾燥地帯があるとは知らなかった。しかも、「過放牧、森林の伐採、過耕作等」食糧を得ようとして開拓する行為が乾燥地帯を増やし、「砂漠化」を助長しているのか、と思えば勤勉に働くことも罪悪となってしまふ。

環境省の「地球環境研究総合推進費」では、平成19年度から「北東アジアの草原地域における砂漠化防止と生態系サービスの回復に関する研究」が実施されている。この研究では、衛星画像解析、環境制御実験、野外実験を組み合わせ、砂漠化防止のための適切な技術の組み合わせを明らかにすることを目指している。日本も「砂漠化防止」に一役買おうというわけだが、実効はあるのだろうか。

「北東アジア」という耳慣れない言葉が出てきたので検索してみた。

「北東アジア」とは日本、中国、朝鮮半島、モンゴル、シベリア・ロシア極東のことである。

「北東アジア」の草原地域といえば、モンゴルの一部を含む中国の草原のことだ。中国にはよく知られている「黄河」と「揚子江」の2つの大河がある。

「黄河」は河口で幅17km、「揚子江」だと40kmくらいあるというから「琵琶湖の東西方向の最大幅が20km」と比較しても巨大な川だ。



(財)環日本海経済研究所

「黄河」は中国の北部を流れ、渤海へと注ぐ川。全長約5,464kmで中国では長江（揚子江）に次いで2番目に長く世界では5番目の長さ、「黄河文明」として世界に知られている。その「黄河」の源流は？・・・どこか「揚子江」「黄河」「瀾滄江」（メコン川）という中国3大河の水源については誰も分からない。そこで、青海省が組織して中国3大河の水源の位置を特定するプロジェクトが正式にスタート。調査活動には、中国国内の代表的な専門家30人が参加し、位置の特定にあたる、というから中国らしいスケールの大きな話だ。

「黄河」を検索していると「黄河崩壊 汚染と水不足の現実」というショッキングな記事にヒットした。

日経の「ナショナル ジオグラフィック」2008年5月号である。

中国北部の乾燥地帯は砂嵐が吹き荒れ、草木も芽吹きそうもない荒野がひろがる。しかし、黄河が蛇行するあたりで、緑の稲穂が波打つ水田があらわれる。トウモロコシや小麦、クコ畑、広大なヒマワリの畑があり、どの作物も育ちがいい。



グレッグ・ジラード(c)2008 National Geographic

黄河の中ほどに位置する寧夏回族自治区北部オアシスは、秦の始皇帝が万里の長城の衛兵たちの食料調達を目的に農民の一人をここに送り、人工の水路を建設させ、以来、2000年の歴史がある。

農民はいまでも、秦の時代からの伝統を受け継ぎ、黄河から引いた水で耕作を行っている。無尽蔵にも思える豊富な水。ここなら水に困ることはない、トウモロコシを育ててきた。「こんなに美しい場所はどこにもないと思っていたものです」と農民は緑の畑を見渡して言う。

だが、驚異的な経済成長を遂げる中国では、農工業の開発と都市化が急ピッチで進み、水需要が急増。黄河は干上がりつつある。しかも、わずかに残った水もひどく汚染されている。

人工水路には、血のように赤い工場の排水が排水口から勢いよくほとぼしり、水路の水が毒々しい紫色に染まり黄河に注いでいる。このあたりにたくさんいた魚や亀は今はいない。水質汚染が進み、飲み水はおろか、農業用水としても使えなくなってしまった。家畜のヤギは、水路の水を飲む



冬になると水量が減少するため、黄河は污水排出口から流れ出る污水で悪臭を放つ。

北京週報（日本語版）HPより

だ数時間後に死んでしまう、始末だ。

汚染の原因は、畑の川上の都市。石嘴山に立ち並ぶ化学工場や製薬工場だ。今では「世界最悪の公害都市」である。農民は「自分の体にじわじわ毒を盛っているようなものです。まったく、母なる河にこんなことをするなんて」と怒りに声をふるわす。

☆意訳（ワイズ編集部）

犠牲となった母なる大河『黄河』

黄河は中国人にとって、「魂」のよりどころともいうべき河だ。チベット高原の標高およそ4300メートルの秘境にその源を持ち、中国北部の平原を滔々と流れる大河。だが、その大河が、今や死の河になりつつある。工場や家庭の排水に汚染され、設計に問題のあるダムが次々に建設されたため、河口付近では流量が極端に減ってしまっている。1990年代には、河口まで到達せずに流れが途絶えてしまう「断流」現象が、ほぼ毎年のように起こった。

黄河は流域の1億5000万人の生活を支えているが、古くから親しまれてきたこの大河が枯れば、その影響はとてつもなく大きい。中国の輝かしい成長と急速な発展とひきかえに環境が荒廃し、人々の暮らしになくしてはならない水が枯渇しつつある。

中国の水資源量は米国とほぼ同じだが、中国はそれだけの水で米国の5倍近い人口を支えなければならない。水は貴重な資源だ。特に乾燥地帯の北部では、常に水不足。

中国全体の15%にすぎない水資源量で、国の人口の半分を支えている。

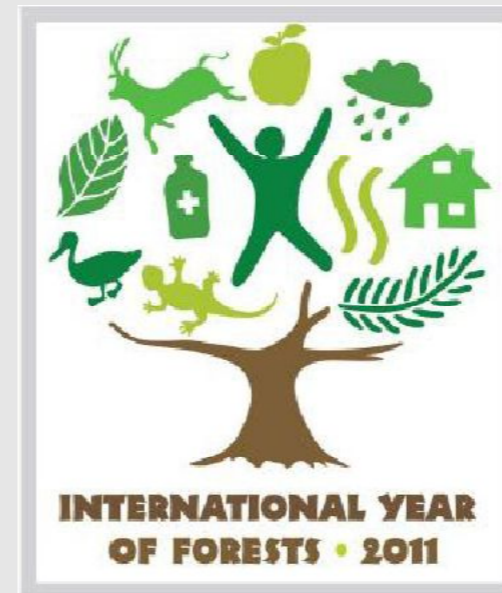
河川には、ヒマラヤなどの氷河から水が流れ込むが、「地球温暖化」で水の重要な補給源である氷河の後退が進んでいる。「砂漠化」にも拍車がかかり、いまでは年間30万ヘクタール以上の草地が砂漠にのみこまれている。

またここでも「地球温暖化」が問題となっている。

しかし、当の中国は、事態の深刻さを理解できているのだろうか？

はなはだ疑問なのである。

2011年は、国連の定める「国際森林年」(International Year of Forests)



林野庁は、「2011 国際森林年」のロゴマークが国際森林フォーラム事務局により発表されたと発表した。2011年は、国連の定める「国際森林年」(International Year of Forests)であり、「現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、持続可能な開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべき」と、国連総会で決議されている。また、国連は加盟国が国際森林年に関連した活動を促進することを奨励しており、我が国でも各地で様々な取組が行われることが期待されている。

今回発表された「国際森林年」のロゴマークは、「Forests for People (人々のための森林)」というテーマを伝えるもので、世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割をたたえ、**人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないものであることを訴えるデザイン**となっている。

雨や雪、を貯えてくれるのが自然のダム、森林である。

特に、落葉樹の多い森林は落葉が何層にもなって、やがて土になる。雨や雪は徐々に落葉の間を通り濾過されてキレイでおいしい水になる。あまたの命を育む水は太古の昔からこうやって産まれてきた。「国際森林年」はまことに価値ある催しであり、自然の森林があるからこそ人類が生きていけることを世界の国々に周知徹底させる必要がある。